

第三十五回 歯の咬み合せと背骨との関係

歯が悪いとか歯の咬み合せが悪いとかが病気の原因といわれていますが、どのように身体に影響を与えているのか それははっきりした事が現在も言われていませんが、それに少しだけ述べることにします。

背骨の骨は上から(胸椎 12 個、腰椎 5 個)は全部で 17 個あります。

脳が背骨の各骨へそこから各内臓へ神経が支配しています。

背骨の 1 番上の骨である 胸椎 1 番は心臓の冠状動脈

胸椎 2 番は心臓の心筋

胸椎 3 番は肺の気管支

胸椎 4 番は胆のう

胸椎 5 番は胃

胸椎 6 番は膵臓

胸椎 7 番は脾臓

胸椎 8 番は肝臓

胸椎 9 番は副腎

胸椎 10 番は腸

胸椎 11 番は腎臓

胸椎 12 番は腎臓

腰椎 1 番は回盲部

腰椎 2 番は盲部

腰椎 3 番は腺

腰椎 4 番は結腸

腰椎 5 番は前立腺、子宮

という具合に各内臓へ神経支配をしています。

そこで、背骨の触診で 3 段階の症状に分けますと背骨の骨の真中の突起だけ後から前へ押すと痛みがある場合レベル 1

さらに悪く背骨の突起だけでなく突起から横 1.5cm 位さらに上に 1.5cm 位にこの背骨の横突起があります。そこを右か左を押すと痛みがある。つまり回轉變位をして後に下がっている方が痛い。

これをレベル 2

さらに背骨の真中の突起を左右の横からつまむと痛みがある場合 癌又は悪性の腫瘍でレベル 3 どの時点で歯を調節するかはレベル 2 の段階ではっきりとわかるものです。

このレベル 2 の段階で、背骨が回転して横突起が後にさがっている(反対側は前方へ)側が痛い

ハズです。この背骨と関係のある首の骨も同じ側で回転して横から触診すると痛いものです。この背骨の横突起が後へ回転している側(反対側は前方へ)の上顎の歯か下顎の歯かどちらかに咬み合せの高低があるものです。

背骨の横突起が後へ回転している側のその側の頭の大脳が異常反応をおこしていれば、その側の上か下かどれかの歯が高いことを意味しています。

反対側の大脳に異常反応をおこしていればその側(横突起が後へ回転)の上か下かのどれかの歯が低いことを意味しています。頭蓋骨の調整した後顎関節の修復術を致しますと、反応が消失する人もいます。

ところが一部の背骨が回転変異しているのではなく前方胸椎(他の背骨よりも1つの背骨だけ前方へずれている場合)のこの場合背骨は前方へずれている部位の左右対称的に異常反応するだけでなく、その背骨と関係のある首の骨も左右対称的に押圧すると他の部位よりも痛みがあり頭蓋骨もそれに関係する部位も左右に異常反応が出るものです。

歯はといいますと、それと関係のある部位の歯を左右対称的な位置の歯が高いか低いかあるものです。

原因となっている一部の歯を左右対称に調整することによって、背骨の前方胸椎のずれは元の正常な状態にも出るものです。

この方法と同時に読み取っておかなければならない事があります。

それは体の胴体部に(背骨ではなく)腰の左右の痛み又は重ダルイ(血流が悪い)となりますと、奥歯の方が左右共に低く片方ですとその側の片方だけが低いということです。

血流が悪く両肩が凝ると前歯寄りの歯が低いことを意味し、そして胴体の中間辺りだと奥歯でもなく前歯でもなく中間の辺りの歯が原因となりますが、先に述べた背骨と大脳との関係のことも考慮して、歯の咬み合わせしなければなりません。

以上の事をすれば100%とは言いませんがほとんどが背骨・首の回転変位 又 体の胴体部 血の流れの悪いのが一瞬にして解決されます。

歯の咬み合わせの前後、左右、対角線が天秤の様にバランスが崩れますと頭骸骨、血流だけでなく首の骨の生理的湾曲が無くなり(首の骨の直・逆カーブ)、冷え症とか体温調節の不可(体の熱い部分と冷たい部分両方持っている→逆カーブ)というように不定愁訴の原因となります。

又、左右の足の長さが4~5cmも違う先天性肢関節脱臼(足のつけ根)というものがありますが、原因は頭蓋骨のズレです。頭の左右の後頭骨が相当前後及び側頭骨の上下ズレをおこしているハズです。

頭蓋骨のズレを治すと足の長さがそろうものです。

杖を持って歩いている人もこれほどの大きなズレではないですが前後、上下のズレを必ずおこしています。

歯の矯正治療、歯の冠、インプラントの入れ歯が狂っていますと左右の足の長さが違って来て年

齡を増すにつれて骨の周りの筋肉も弱り、そしてバランスが崩れて足の裏が痛くなったりヒザが痛くなったり、肢関節(足のつけ根)が痛くなったり血流が悪くなり慢性の病気を…。

次回はおしり(骨盤)の真中の骨である仙骨と歯の咬み合わせの関係を予定しています。